

料金後納

ゆうメール

# 育脳寺子屋通信

〒616-8156 京都市右京区太秦西野町20

育脳寺子屋MAC

TEL 075-871-0374

FAX 075-882-3777

URL <http://www.mac-terakoya.com>

e-mail [4411@mtf.biglobe.ne.jp](mailto:4411@mtf.biglobe.ne.jp)

**teaching** → **learning**

**これからは「学び」の教育**

育脳寺子屋加盟塾会員向け通信の第1号です。

今後起こりうる諸問題を先生方と共有したいと考え発刊することにしました。

ところで、先日の「育脳news」で、**子どもの自発的な学びへの転換を図る**方法を考える「学び教育フォーラム」が大阪で開催されるとお知らせしました。

その発端は、やはり東日本大震災における原発事故対応にあったようです。

勿論、企業の国際力低下、格差社会の出現、税負担の不公平感などの一連の問題も、人的資源の不足と質的低下と捉え、その根底に教育問題があると考え「フォーラム」が開かれたのです。

MAC真成塾では、5～6年前より、6年生が中学生に進級する際に、保護者に下記のような文書を送付しています。

日頃は、**MACの21世紀型の教育方針**（知識詰め込み授業ではなく実社会に出て役立つ自立学習型完全個別授業）にご理解を賜りありがとうございます。

大前研一氏は

今の「**答を教える教育**」が使えない人材を量産した。「**答を教える教育**」しかしていないから、ほとんど“**電卓みたいな人間**”しか育たない。

21世紀は「**答のない**」時代である。そういう時代にあって、日本社会の大きな問題の一つは、**旧態依然とした「先生が教える」教育**を続けていることだろう、と。

PRESIDENTより

そんな日本の教育に一つの風穴を開けたいと考えMACが取り組んでいるのが

**t e a c h** → **l e a r n**

への授業体系です。

このようなものなのですが、  
実は、この教育フォーラムでも、

日本では **learning** と **studying** をともに「学習」と呼んで区別していませんでした。ところが、OECD（欧州中心、日米を含む経済協力開発機構）では、21世紀を**知識基礎社会**と捉え、授業を「**teaching から learning**」, 『**一斉授業から協働（プロジェクト）学習**』と唱え、多くの国でプロジェクト学習が授業の中心になってきていると言っています。

また、「学び」の原理は、義務教育でも企業内教育でも社会教育でも同じ、「**自立**」して「**深く考える**」「**学び**」があってこそ、創造性に溢れる人材や優秀な科学技術人財を育成することが可能になると言っています。

このように危機的な状況にもかかわらず、一番の課題は、新しい教育の導入に消極的な管理職者（学習塾の塾長も含め）が多いことです。学校や実社会に迫いても、日本のいたるところで、今なすべきことを実行できない「**支持待ち型**」の人が急増しているということです。

**「教育」は再生産します。自分が受けてきた教育をそのまま後輩（生徒）に伝えようとします。**つまり、「**受身の詰め込み勉強**」をやらされてきた人は、同じ方法で生徒たちを指導しようとするのです。学生が主力の大手の学習塾などは、その際たるものです。

その結果、学生時代に、親切に丁寧に教えられてきた人は、社会に出て必要な知識を身につけようとしても、本当の自己学習の訓練を受けていませんから、また、誰か親切な先生が必要になるのです。

**この悪循環を、主役は生徒と考える育脳寺子屋加盟塾の先生方の力で早く絶ちたいものです。**

企業においても、かつて欧米で製造されていた、自動車、掃除機、洗濯機などをより高品質で安く作ればビジネスになりました。これはビジネスに正解が分かっていたからです。全く新しい課題を必要としなかったからです。今後は、社会では問題にならない正解のある教育を受けてきた人たちでは、対応できないのは当然だと言えます。

では私たちはどのように取り組んでいけばよいのでしょうか？

**その前に、衝撃的な事実をお知らせします。**

**何と、黒板に向かって一斉授業をやっているのは、日本と北朝鮮だけ** なのです。

それでも、黒板を使った授業をしますか？ 中国でも一斉授業はなくなりつつあるのです。話を元に戻します。

**生徒たちが、学習意欲を持って自ら行動し、勉強するという環境作りが必要となってきます。**

**それには「**教えない授業**」をすることです。**

**「教えない」とは、「答を与えずに導く」ということに他なりません。**

MACでは、20数年前から黒板を使った授業をやめました。その後、**「答えを教えない授業」**に取り組みました。

それまでは、黒板を使った一斉授業だったのですが、近隣の塾では、個別授業とまではいきませんが、少人数対象の塾が多く生徒を集めるようになりました。

その時は、一斉授業での限界、即ち理解できていない子がいるのが分かっているのに、授業を進めていかなければならないジレンマにも陥っていました。

今のままでは、生徒たちは少人数対象の塾に流れてしまうという危機に接し、少人数より個別対応のほうがよりよい結果を出せるのではないかと考えました。

でも、ブースで仕切るような教室にはしたくない。友達顔も見ながら勉強に取り組むほうがより自然ではないかと考え、出した**結論はソロバン授業と同じ形式**にすること。

ソロバン授業では、一斉授業と同じように多くの生徒が一つの教室に入ります。でも生徒それぞれは、練習している級や進度も違い指導内容は異なりますので、各生徒に対応して指導しています。

この仕方を、学習に取り込んだのです。

即ち、**オープンスペースでの個別対応授業**です。

**「答えを教えない授業」**は、多くの生徒を相手にしていた経験から生まれました。

勿論全く答えを教えないというわけではありません。各生徒のレベルに合わせてヒントは出していきます。でも、答を出すのは生徒自身です。

ある時、「**答えを教えない学習方法**」を疑問に思っていたチューターの学生が、一人の生徒に熱心に答を教え込んでいました。そして、私に

「よく分かってくれたので、次の授業では、バッチリ結果を出しますよ」

と言いました。

ところが、次の授業でその子は全く正解を出すことが出来なかったのです。チューターの大学生はショックを隠しきれませんでした。

「あれだけ、長い時間かかって教え、分かったって言ってくれたのに。なぜですか？」

と、尋ねてきました。

**「教えすぎと違う？ 少なくとも答えは、生徒自身が出さなくては！」**

と、いうことで今度は私が指導しました。答を導く方法で！

次の授業で、その生徒は、間違えることなく問題を解きました。

チューターの大学生も、答を導く方法に納得。その後は、この方法を守ってくれました。

モットーは「**不親切・不自由・不便**」です（^-^）

小さな親切、いらんお節介。分からせようと教え込んでも、本当の理解につながらないのです。

この頃は、お勤めされているお母さん方が多いので、次のように説明しています。

「仕事でも、どのように取り組んでいいのか分からないからと、考えもせずに人に聞いたことは、次に同じことが起きたとき、また聞かないと出来ないでしょう？ でも、自分で考え試行錯誤して取り組んだことは、同じことが起きたとき、人に聞かなくても直ぐに対処できますよね。学習も一緒に、自分で考え答を導き出した問題は、少し問題がひねられていても、聞かなくても答を出すことが出来るんですよ。MACでは、このような力をお子さんに付けています」と。

ところが、その後チューターとして入った大学生が、「**答を教えない授業**」に全く対応できなくなってきました。教えるなど言うと全く教えません。ただ横に座っているだけなのです。前述しましたように、**教育は再生産**しますので、10数年前までの大学生は自分で考え、各生徒に対応した指導が出来ていたのに、それ以降は全く対処できなくなりました。

**教えてもらうのが当たり前**がだんだん浸透してきたからでしょうか？

そこで、大学生がいなくても出来る授業体系を模索しました。そうです。私一人で15、6人指導できる今の体型です。（現在は、室長がいますので2人で20数人に対応していますが）

これで、本格的に「**教えない授業**」に取り組むことが出来ました。

そして、更に**中学部では、定期テスト1週間前には塾には来るな！**と宣言。

（それまでにテスト範囲を終わらせておくこと、詰め込み一夜漬けでは、テストが終わってしまうと直ぐに忘れてしまい、覚えた知識は定着しませんから）

生徒には、計画生のある授業に取り組むように指導しています。

自分で授業予定を組ませ、定期テストまでにはテスト範囲を終わらせるように。当然、家庭学習がポイントになります。

できない場合は、実社会では納期遅れと言うことになり、相手の会社に損害を与えることになるので、賠償金を払わなくてはならないよ と言っています。

また、実社会では、予定を立てて仕事に取り組むのが当たり前のことであり、このように計画性のある勉強の仕方を身につけておくと、将来は仕事の出来る人になるとも。

その結果、テスト1週間前にテスト範囲を終了している生徒は、高得点を取っています。従って、1週間休ませても保護者からのクレームは一切ありません。

ほとんどの生徒は、中3になると遅くても3～4日前には終了しています。

周囲の生徒からは、MACは賢い人ばかりが通塾していると言われているそうですが、この子

達は、小学生のときは、ごく普通の子でした。

教師だから教えるのが当たり前、  
生徒は教えてもらうのが当たり前、  
だから教えてもらうまでは自分で考えない、

その結果、分数の出来ない大学生が出てきたのでは！  
答が合えばと、詰め込み、やらされてきたから、自分の本当に知識になっていないのです。

そんなことを言って、本当に結果が出ているの？ と言われそうですが・・・  
この当たり前から、脱却したから結果を出してきたのです。

育脳の1期生とも言える現中3生の第1回目の模試の結果は下記のようになります。

中学3年 第1回 1頁 MAC真成塾										
■五教科の10段階分布										
10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	五教科 の 受験者
70以上	~65	~60	~55	~50	~45	~40	~35	~30	29以下	
(3%)	(4%)	(9%)	(15%)	(19%)	(19%)	(15%)	(9%)	(4%)	(3%)	
1人 13%	0人 0%	1人 13%	2人 25%	2人 25%	0人 0%	1人 13%	1人 13%	0人 0%	0人 0%	8人
1人	0人	1人	2人	2人	0人	1人	1人	0人	0人	8人

トップの生徒は偏差値75です。

下位の生徒は、中2の3月に入塾してきましたので、これからです。

本来は、中学生からの入塾は認めていなかったのです。だから、中学生は減ることはあっても増えることはありませんが、頑なにお断りしてきました。

今回は、父親がMACのOBという事もあり、既に今まで通っていた塾を辞めたと言うので急遽入塾を認めました。

最初は、答を教えてもらえないので、戸惑っていましたが、何とか喰らいついています。早く計画性のある勉強をさせたいと、父親の了解の元、日々ボロクソに言ってしごいています。

ところで、この頃の中学生、何を考えているのですかね。

何も考えていない！ というほうが適切かも！！

中1生などは、定期テストがいつ実施されるのか知らない、実施日は分かっている、いつ何の科目のテストがあるのかチンプンカンプン。

このような生徒を、中3になるまでに、テストにはどう向き合うべきかを自覚させなければならぬのですから、頭の痛いことです。

まあ、時間がかかりましたが、やっと「**教えない授業**」と、「**育脳トライアル**」で**基礎・基本**力をアップしたことにより、成果が出てきたと考えています。

平成24年度

## 進研V7塾内領域別成績表

国語	語句・文法			文脈把握			漢字			内容理解			古典						
	設問数	平均正答数	正答率	設問数	平均正答数	正答率	設問数	平均正答数	正答率	設問数	平均正答数	正答率	設問数	平均正答数	正答率				
教室内	4	1.8	44%	教室内	4	2.6	66%	教室内	10	7.8	78%	教室内	7	3.8	54%	教室内	5	2.4	48%
塾内		1.8	44%	塾内		2.6	66%	塾内		7.8	78%	塾内		3.8	54%	塾内		2.4	48%
全体		1.3	32%	全体		2.5	63%	全体		6.9	69%	全体		2.9	42%	全体		1.8	36%

数学	空間図形			数と式・資料の活用と確率			平面図形			方程式			関数						
	設問数	平均正答数	正答率	設問数	平均正答数	正答率	設問数	平均正答数	正答率	設問数	平均正答数	正答率	設問数	平均正答数	正答率				
教室内	3	1.3	42%	教室内	6	4.3	71%	教室内	5	1.1	23%	教室内	5	3.6	73%	教室内	5	2.0	40%
塾内		1.3	42%	塾内		4.3	71%	塾内		1.1	23%	塾内		3.6	73%	塾内		2.0	40%
全体		1.2	41%	全体		3.6	59%	全体		1.1	22%	全体		3.4	69%	全体		2.1	41%

英語	英文法			語い・英作文			読み方			内容理解			内容一致・英答						
	設問数	平均正答数	正答率	設問数	平均正答数	正答率	設問数	平均正答数	正答率	設問数	平均正答数	正答率	設問数	平均正答数	正答率				
教室内	11	6.5	59%	教室内	8	3.8	47%	教室内	5	3.9	78%	教室内	9	5.6	63%	教室内	5	2.5	50%
塾内		6.5	59%	塾内		3.8	47%	塾内		3.9	78%	塾内		5.6	63%	塾内		2.5	50%
全体		6.4	58%	全体		3.5	43%	全体		3.4	68%	全体		5.1	57%	全体		2.1	42%

社会	古代までの日本			日本のすがた			日本の中世～近世			世界のすがた			身近な地域の調査						
	設問数	平均正答数	正答率	設問数	平均正答数	正答率	設問数	平均正答数	正答率	設問数	平均正答数	正答率	設問数	平均正答数	正答率				
教室内	13	7.6	59%	教室内	5	3.9	78%	教室内	12	6.5	54%	教室内	6	3.4	56%	教室内	4	2.0	50%
塾内		7.6	59%	塾内		3.9	78%	塾内		6.5	54%	塾内		3.4	56%	塾内		2.0	50%
全体		6.9	53%	全体		3.2	63%	全体		5.1	42%	全体		3.0	50%	全体		2.0	51%

理科	大地の変化			植物と動物の生活			力のはたらき、電気			身のまわりの物質					
	設問数	平均正答数	正答率	設問数	平均正答数	正答率	設問数	平均正答数	正答率	設問数	平均正答数	正答率			
教室内	10	6.1	61%	教室内	8	4.3	53%	教室内	9	4.4	49%	教室内	8	4.8	59%
塾内		6.1	61%	塾内		4.3	53%	塾内		4.4	49%	塾内		4.8	59%
全体		5.0	50%	全体		3.9	49%	全体		2.8	31%	全体		3.8	47%

恥ずかしながら、今までは、どの領域も全体を下回っていました。

今回は、一つの領域だけが全体より下、二つの領域が同じ、他は全て上回っています。

「詰め込み」「やらされ勉強」ではなく、「教えない授業」で結果を出したところに意義があるのではないのでしょうか？

今回の大阪での「**自発的な学びへの転換を図る教育フォーラム**」は高校生・大学生を対象としたものですが、それでは遅いと考えています。

ただし、小学生、中学生時に自発的に取り組ませるには、**子ども達の「やってみよう」という気持ちを大切に好奇心を刺激する教材**が必要なのは言うまでもありません。その教材が何であるかは、勿論ご存知ですね。